

関西におけるコンベンション・展示施設等の状況

世界全体での国際会議の開催件数は増加傾向

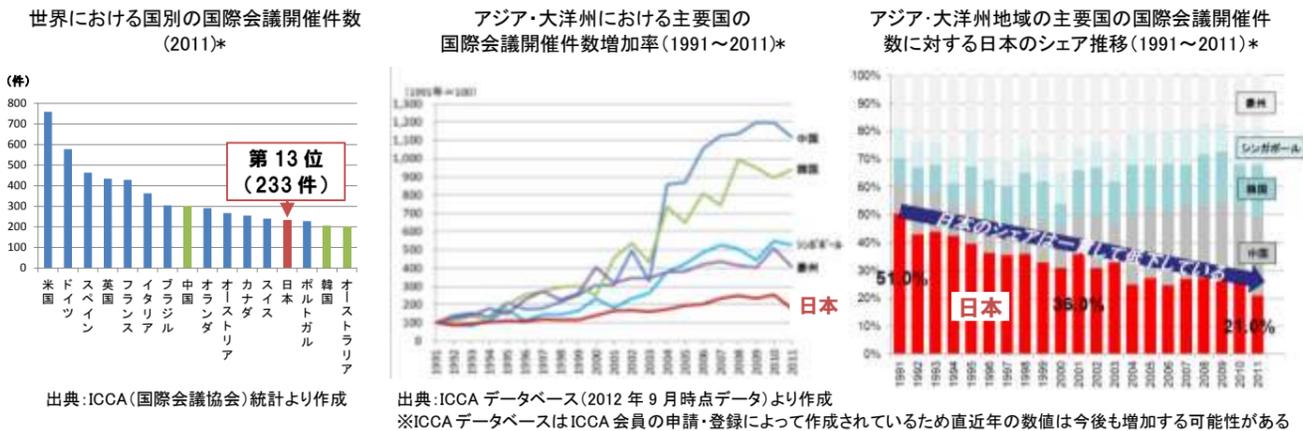
・地域別で見ると、ヨーロッパの割合が高く全体の半数以上を占める。また、急速な経済成長を背景として、アジア地域の伸び率が非常に高く、過去10年間で約2倍に伸びている。

＜ICCAによる国際会議の定義＞
 ・「国際機関・国際団体(各国支部含む)」の主催または後援
 ・参加者総数:50名以上
 ・定期的に開催される(1回だけ開催されたものは除外)
 ・3カ国以上での会議持ち回りがある(2カ国間は除外)



アジア地域の国際会議開催規模は伸長しているものの、中国、韓国、シンガポール等のプレゼンスが拡大

・アジア太平洋地域を国別に見ると、我が国を含む主要国は近年全て開催件数を伸ばしている。
 ・90年代は域内では日本が圧倒的な存在感を示していたが、2000年前後から中国、韓国、シンガポール等の主要国が開催件数を大きく拡大しているところ。



アジア地域の展示会開催規模は増加も、中国や韓国で経済成長を背景に開催件数が増加

・アジア地域の展示会開催規模は毎年数パーセントずつ増加している。
 ・アジア各国の展示会開催件数を見ると、日本が2007年をピークに開催件数が減少傾向にあるのに対し、中国や韓国においては、その経済成長を背景として開催件数が増加傾向にあることが読み取れる。



注)UFIが把握している見本市・展示会のみを集計しており、必ずしもアジア地域で開催された見本市展示会を網羅しているものではない 出典:UFI「The Trade Fair Industry In Asia」7th edition&8th editionより
 ※各国の「見本市・展示会」の対象・補足範囲が異なるため、国毎の数値比較は不適当

世界規模で受入に向けた競争が加熱も日本は動きに立ち遅れつつある状況

・国際会議場や展示場等の施設整備が、MICE誘致競争に大きな影響。アジア主要国がグローバルニーズにマッチしたMICE施設の整備を積極的に進めているところ、我が国はそうした動きに立ち遅れつつあるのが現状。

- 1. 競合国のMICE施設整備**
 ・近年、①国際会議場と展示場の一体整備、②展示場規模の大型化、③アフターコンベンション機能も含めた複合施設化がグローバルスタンダードに
 ・韓国、中国、シンガポール等のアジア競合国は、こうしたニーズを取り込んだ施設整備を積極的に推進する一方、我が国は立ち遅れ。
- 2. 我が国MICE施設の課題**
 1) 会議場、展示場、宿泊施設等からなる一体的MICE施設の不足
 2) 会議施設の展示規模不足
 3) 稼働率が高く予約が取りづらい首都圏MICE施設の不足
 4) 大規模会議場、多数の小規模会議室を有する施設の不足
- 3. 施設整備にあたっての課題**
 ・MICE開催の経済効果は、幅広い主体に及ぶ一方、施設単独での採算確保は困難
 ・海外では、特定財源の確保や民間資金の拠出など、新たなファイナンススキームを構築している事例も

アジア主要国の国際会議場・展示場

国	施設名	最大規模の会議場の収容人数	総展示面積
日本	東京国際フォーラム(会議場)	5,012人	5,000㎡
	東京ビッグサイト(展示場)	1,000人	80,660㎡
	パシフィコ横浜(会議場・展示場)	5,002人	20,000㎡
	国立京都国際会館(会議場)	1,840人	3,000㎡
韓国	大田国際会議場(会議場)	2,754人	2,600㎡
	COEX(会議場)	7,000人	36,007㎡
シンガポール	KINTEX(展示場)	6,000人	108,049㎡
	Suntec Singapore(会議場・展示場)	10,000人	22,600㎡
中国	Marina Bay Sands(会議場・展示場)	11,000人	31,750㎡
	北京国家会議中心(会議場)	5,700人	35,000㎡
	広州琶洲会展場(展示場)	不明	338,000㎡

出典:観光庁:MICE国際競争力強化委員会最終とりまとめ(参考資料、平成25年8月)

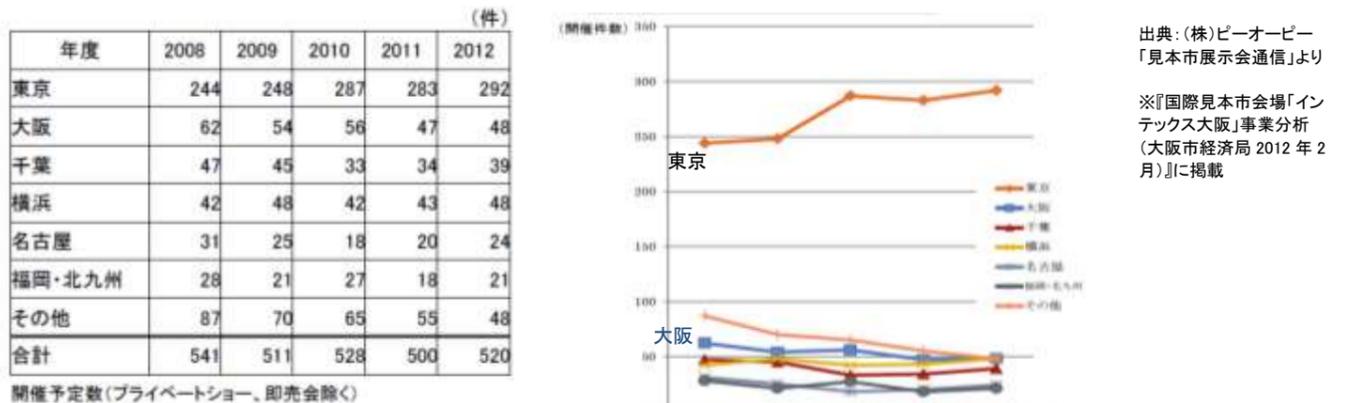
日本の国際会議は東京ほか首都圏での開催が多く、都市別に見ても大阪の件数は少ない

・国際会議開催件数、参加外客数を見ても、首都圏でのシェアが多い。都市別に見ても関西の各都市、とりわけ大阪での開催件数は東京等と比べて少ない。



日本の展示会も東京での開催が圧倒的で増加傾向、大阪含む其他都市は減少傾向

・展示会は、国内では東京の開催件数も多く、全国の開催の半分程度を占め、さらに増加傾向にある。
 ・一方で、大阪を含め地方都市は概ね減少傾向となっている。



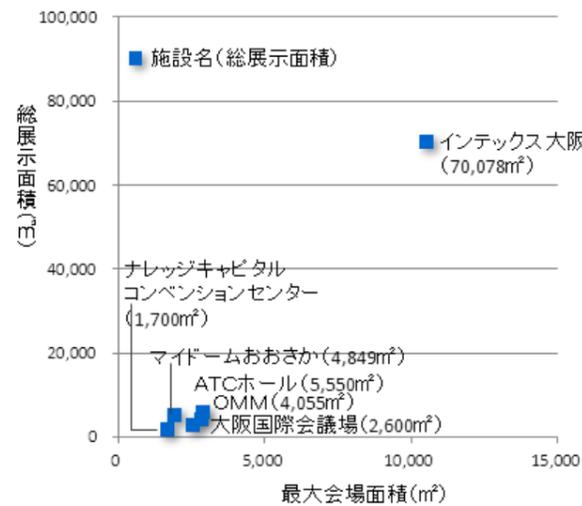
関西のコンベンション・展示施設は大阪都心・ベイエリアに集積するほか、京都・神戸に立地するが、施設規模等では見劣り

- ・関西の主要展示施設を見ると、大阪都心・ベイエリアに集積するほか、京都・神戸にも立地する。
- ・総展示面積最大はインテックス大阪であるが、東京や海外の展示面積と比較しても小さい。
- ・総展示面積 10 万㎡以上の展示施設がないこと、最大会場面積が数千~1 万㎡規模の展示施設がないこと、主要展示施設の総展示面積の合計が 10 万㎡未満であることが挙げられる。

(参考: 総展示面積/最大会場面積)

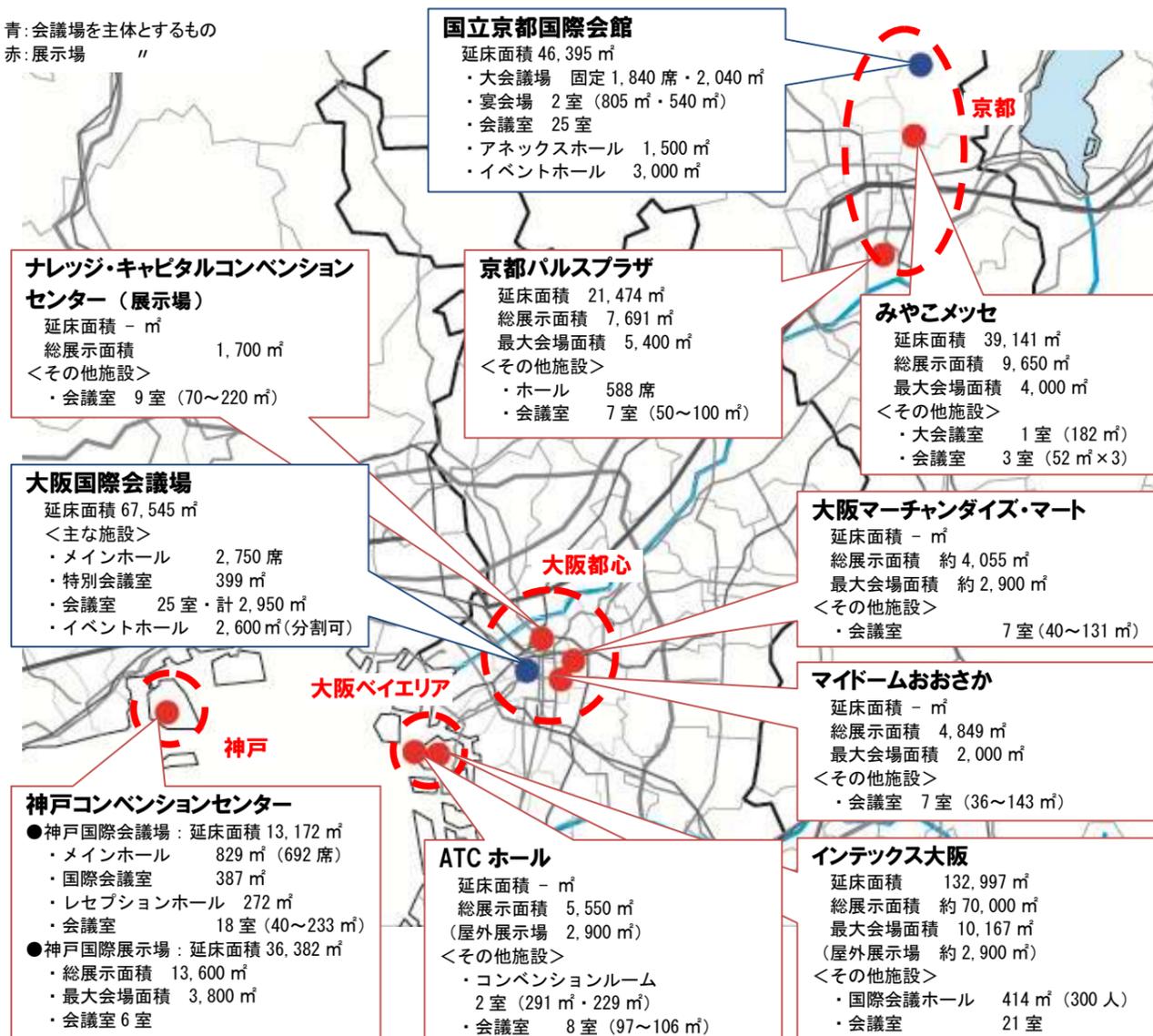
東京ビッグサイト	(80,660 ㎡/8,800 ㎡)
パシフィコ横浜	(20,000 ㎡/20,000 ㎡)
KINTEX(韓国)	(108,049 ㎡)
Marina Bay Sands(シンガポール)	(31,750 ㎡)
北京国家会議中心(中国)	(35,000 ㎡)

大阪の主要展示施設の総展示面積と最大会場面積



京阪神のコンベンション施設の立地状況 (概ね展示スペースが 1,000 ㎡以上を有する関西の主な施設)

青: 会議場を主体とするもの
赤: 展示場



(参考)海外における事例

- ・主催者ニーズとして、開催エリアには会議施設、ホテル、飲食・物販、エンターテインメントといった各種施設が徒歩圏内に立地していることが求められる。
- ・シンガポールや、韓国では、MICE 開催に必要な各種施設がオールインワンとなった MICE エリアを整備しており、主催者からその利便性について高い評価を受けている。

	海外一体型のMICEエリア事例	国内のMICEエリアの状況
	Marina Bay Sands(シンガポール) 	COEX(ソウル)
MICE施設	・会議場: 11,000人収容 ・展示場: 31,750㎡	・会議場: 2,000人収容 ・展示場: 36,000㎡
ホテル	・シンガポール最大となる2,561室のハイクラスホテルが併設	・3つのハイクラスホテルが同一エリアに立地、客室数は1,403室
飲食・物販	・店舗数300超のショッピングモールが併設	・韓国最大規模のショッピングモールが併設されているほか、現代百貨店が同一エリアに立地
アクセス	・チャンギ国際空港から車で約20分 ・地下鉄Marina Bay駅に直結	・仁川国際空港から車で約1時間半 ・金浦空港から車で約1時間、2013年には直通可能な鉄道駅も整備予定
その他	・2つの劇場、博物館、カジノ等	・エアポートターミナル、カジノ等

- 会議場・展示場、ホテル、飲食施設等が一体的に整備された、顧客にとって利便性の高い地域は、横浜などごく一部。
- ホテル、飲食・物販をはじめ、施設とMICE関連産業のソフト面での連携体制も整っていない。
- 首都圏のMICE施設は全般的に稼働率が高く、新規案件の受入余地が乏しい。

出典: 観光庁: MICE 国際競争力強化委員会最終とりまとめ (参考資料、平成25年8月)

(参考)インテックス大阪及び周辺における課題

- ・ロケーションの良さを評価する一方、アクセス面での不便さや周辺の賑わい無さが課題。
- ・会議施設の不足、施設の老朽化、ネット接続環境の未整備などハード面の整備が課題。

主催者業界等へのヒアリングからみた、開催地として選ばれるためのインテックス大阪と周辺の課題 (立地環境に関するものを抜粋)

インテックス大阪一南港



MICE施設	・展示場: 70,078 ㎡ ・会議場: 300 人収容
ホテル	・ハイアットリージェンシー大阪 (480 室)に隣接
飲食・物販	・ATC (アジア太平洋トレードセンター)
アクセス	・関西国際空港から車で約 50 分 ・ニュートラム最寄駅より約 8 分
その他	-

質問項目	概要	ヒアリングによって把握した主な意見
インテックスのロケーション	ロケーションの良さ	西日本をターゲットにするなら非常に良い。
現状におけるインテックス大阪の課題	アクセスが不便	・市内中心部まで 30 分以上かかる。スムーズに 15 分くらいで移動できないか。ニュートラムの輸送力が不足している。
	会議施設がない 宿泊施設がない	・セミナー等を開催できる会議設備がないのは問題。 ・6,000 人以上を収容できる会議施設があることと、宿泊施設が少ないことを解消できれば、大型会議の誘致も可能ではないか。
	周辺の賑わいがない	・食事をするにも宿泊先のホテルに戻る必要がある。周辺がもっと賑やかになると良い。

出典: 『国際見本市会場「インテックス大阪」事業分析(大阪府経済局 2012 年 2 月)』